

第2回芸北小学校スキー事故検証委員会議事の概要

開催年月日	平成28年7月2日（月）午後1：30～4：40		
場 所	広島県情報プラザ 視聴覚研修室		
出席者	検証委員	委員長	戸田 芳雄
		副委員長	水沢 利栄
		委 員	宮本香代子、藤田 大輔、木宮 敬信
	検証補助員	課長補佐	河野 通之
		主 任	沖中 満春
		主 任	大畑 直也
	出席事務局職員	教育長	池田 庄策
		学校教育課長	石坪 隆雄
	出席学校職員	校長，教頭，スキー教室担当者，Aグループ指導者	

議事

I. 開会

第2回検証委員会の会議の公開については、個人情報が含まれていないⅢ3②までとする。資料については、配付資料を公開とする。また、個人名等の個人情報が含まれていること、また事実の確認が取れていない調査途中のものについては、公開しないことを確認。

II. 報告

- 第1回検証委員会議事要旨及び資料の情報公開の方法等について
 - 議事録の公開については、概要版を公開することを確認。
 - 資料の公開については、個人情報がある資料及び調査が終わっていない段階の資料は非公開することを確認。
- 第1回検証委員会議事要旨及び公開資料の確認
 - 議事概要の内容を確認し、今後、町教育委員会のホームページで速やかに公開することを確認。
 - 公開資料は、町教育委員会のホームページで公開済みであることを確認。
- 外部の関係者への調査実施に関する見通し等について
 - 当該児童を診察していただいた医師、スキー場関係者（管理者、パトロール）、外部指導者等への聞き取りについては、了解が得られる見込みであり、今後、日程調整を行う。
 - 相手方担当医師、相手方の現在の状況の把握や聞き取りの実施については、今後対応。
相手方への聞き取りについては、本事故の重要な部分になるため、ぜひ実施させていただきたい。
- 補助調査員の追加について
 - 事務局職員 沖中を追加で指名することを決定。
- その他
 - 特になし。

Ⅲ. 議事(質疑)

1 全体の調査内容及び報告書の作成等について

- ・ 別紙資料「事故検証委員会の予定」及び「【調査内容及び役割分担等】」において、今後の調査予定及び担当者、報告案の確認等の時期等について決定。
- ・ 別紙資料「報告書の取りまとめについて」において、①内容 ②素案作成 ③報告書記載内容、公表内容及び対象について、町教育委員会と協議し、検証委員会で判断することを決定。また、報告書の公表については、概要版を公表することを決定。

2 北広島町教育委員会へのヒアリング

① 北広島町の教育の重点及び安全教育への取組の経緯等

- ・ 北広島町においては、「体・徳・知」の充実に向けた教育、特に体力向上に重点を置き取組を進めた結果、体力向上が図られ、公表される学年においては県内トップとなる成果を得た。徳育については、町の課題である人口減少に対応するため、子供達に町を好きになってもらい、いつか町に帰って来てくれる子供を育成するため「北広島ふるさと夢プロジェクト」に、重点的に取り組んでいる。学力については、各学校において基礎学力の定着にむけ取組を進めている。

安全教育については、当該小学校は交通安全教育に特に重点的に取り組んでおり、自転車大会においては4年連続して全国大会に出場し、文部科学大臣表彰及び県教育委員会奨励賞を学校安全の部で受けており、数年にわたり安全教育を重点的に進めてきている。

② 基本調査の結果及び事故発生時及びその後の学校への支援

- ・ 基本調査については、2月の事故直後、「芸北小学校事故調査チーム」を組織し、当該グループの児童、教職員、パトロール隊員からの聞き取り等は実施したが、相手方の聞き取り等はできておらず、また警察からも捜査中であり情報が得られておらず、事故原因の特定には至っていない。
- ・ 当該児童のスキーの技術はかなり高く、また相手方のスノーボーダーも高い技術をもっておられたように把握している。町教育委員会としては、児童、相手方双方が他の児童やスノーボーダーを認識していたのではないかと捉えている。また、双方が相手を認識していれば、回避行動をとることが可能であったのではないかと考えている。
- ・ 学校への支援については、事故直後、町教育委員会から職員を派遣した。また、県教育委員会からスクールカウンセラー、また、広島県西部教育事務所芸北支所から職員を派遣していただき、更には子供達及び職員のケアに当たる非常勤講師を措置していただいた。今年度は、当該児童の学年の子供達が中学校へ進学したことから、中学校に子供達のケアを担う加配教員を措置していただいた。
- ・ 町内の学校に対しては、次の4点の対策を行い、学校安全の徹底を図っている。
 - ① 安全マニュアルの見直しを行った。校外学習や学校行事、教科の授業等、安全に係るチェック項目を22項目作成し、その都度、チェックを行うこととした。
 - ② 中学校部活動の練習試合への送迎について、保護者が他の生徒を同乗させて練習試合へ行くことがないよう、各校への指導を徹底した。また、保護者の負担軽減のため、中型バスを1台使えるようにし、シルバー人材センターに依頼し、運転をしていただけるようにした。更には中学校の土・日曜日の部活動について、いずれか1日は休養

日を設けることとした。

- ③ 自転車事故の防止対策について、学校管理下ではないものの事故が発生しており、校長研修会で指導の徹底をするよう指示した。また、ヘルメットの着用をお願いした。
- ④ 学校プールの夏季休業中の使用について、保護者に監視をお願いするとともに、町教育委員会からも監視員を1名派遣し、監視体制を整える予定。

<質疑>

- マニュアルの見直しをしたとあったが、これまで作っていなかったということか。
⇒ これまで学校ごとに作っていたものを一本化し、充実させた。町内全ての学校のマニュアルを見直した。
- 事故発生直後に来ていただいた消防（救命）への通報記録の確認をしているか。
⇒ していない。これから行う。
- 事故の教訓を共有するという観点から、教職員への研修はどのようにしているか。
⇒ 事故発生後、まずは臨時校長研修を行い、事故の概要及び今後の対応を周知した。また、県教育委員会においてもスキー教室の実態調査が行われた。今後、スキー教室のマニュアルの精度を高めていきたい。
- 文部科学省事故対応有識者会議の委員会等において、事故対応の教訓の共有化ができていないと過去の事例のご遺族から出ていた。校種間を超えた指導を教育委員会からもすべき。
⇒ スキー以外の部分でも徹底していきたい。
- 教育委員会で事故調査チームを作り、聞き取りを行ったということだが、スキー場関係者等からどんなことを聞き取っているのか。
⇒ 事故が発生した後の事しかわかっていない。町教育委員会調査チームにおいては、1週間後、子供達が滑走したすべてのコースを時間通りに滑走し、外部の指導者から話を聞いたり、事故発生の位置についても確認した。
- スキーは北広島町において重要な産業と捉えている。町教育委員会として、スキー場の安全性向上に対して、これまでどのような要請をしてきたか。また、今後はどうか。
⇒ スキー場が集中しているのは芸北地域。安全について、学校・スキー場が安全点検はしてきたが、それが十分であったか改めて検証する必要があると考えている。
- 学校の授業としてスキー場を利用する場合、救急対策、事故防止対策、事故が発生した際の補償対策が充実しているスキー場かどうか、この事故を教訓に、より安全を目指すスキー場を選定していただきたい。
- 教員のスキーが得意でないため外部指導者に指導をお願いしている状況だが、スキーの危険性について事前の学習をきちんと行い、スキー場の選定にも力を入れていく必要がある。
⇒ スキーは本町において大切な授業内容であり、力を入れる必要があると考えている。若い教員を対象に実技研修をする指導者塾をつくっており、体育の指導について自主的な研究会を組織しているので、今後も充実させていきたい。
- スキー教室を継続するため、どのような安全教育等が必要と考えているか。
⇒ スキーだけでいうと、芸北地域と他の町内の地域では、スキー教室の質が違う。他の雪の少ない地域では基本的に歩いて登り、プルークで降りるような状況。芸北地域

の6年生等の上級者は競技中心の子供達であり、芸北地域のスキー教室をどうするか検討したい。現在のままでの実施についても可能な学校もあると考えている。今後、指導者を増やしたり、また検証委員会のご意見もしっかり聞かせていただきたい。

- スキー記録会を計画していたとのことだが、その記録会のために体育の授業を使うのはどうか。

⇒ 「スキーに親しむ」ということは大変大切なこと。高学年になると、一部では競技力向上の意識がないとは言えない。

- 部活動の送迎の見直しについて話があったが、スキーの部活動のみか。

⇒ 中学校の全ての部活動。

- 見直しをしたマニュアルを提示してほしい。

- 遺族及び他の児童生徒、関係者の心のケアをどのように考えているか。

⇒ 中学校に進学した生徒については、中学校と密に連携を行い、実態把握に努める。また、中学校・小学校にカウンセラーを配置していただいているので、情報を得ながら心のケアを行う。遺族に対しても、カウンセリングを受けていただいた。検証委員会等の情報も当該の保護者に提示しながら話を進めていくとともに、必要に応じてカウンセリングを受けていただきたいと考えている。

3 芸北小学校へのヒアリング

- ① 芸北小学校における学校安全への取組はどのように進めているか。

⇒ 次年度の学校安全計画は、前年度中に作成し、4月当初に企画委員会で保健主事が起案し、協議、決裁する。その後、職員へ周知する。学校安全については、校内の生活安全、災害安全だけでなく、交通安全、地域での安全等、外部とも連携を行いながら進めている。避難計画も含め月ごとに、また学年（発達段階）に応じた年間計画を作成している。交通安全については、過去から取組を進め、地域・保護者の協力を得、長年事故のない状況にある。

- 芸北小学校では、学校安全計画一覧表のようなものは作成しているか。作成していれば提出してほしい。

⇒ 作成しているので、提出する。

- ② スキー授業の安全対策についてはどのように進めてきたか。

⇒ 前年度まで安全対策をベースに、担当の4名が関わり、11月に作成し、外部団体、指導者スキー場との連携を行い、12月に職員に周知し、1・2月のスキー教室を実施している。

- 安全対策の面では、子供への指導、外部指導者との連携はどのようにしてきたのか。

⇒ 学習指導要領、体育の教科書に沿った形で、分掌で話を進め、各学年の技術・経験に応じて、各学級で指導をしている。子供は地域のスポーツ少年団の活動もしており、その中で危険なことがなかったかどうか確認し、学級や全校で注意喚起をするなど、指導を行ってきた。スキーは外部指導者が技術的にも優れ、指導も日々されている方なので、事故には気をつけていただくようお願いをして行っていた。

- 外部指導者との事前の打合せはどのようにしてきたか？

⇒ 全ての方を一堂に会して行うことにはならなかったが、児童のレベルに応じて指導していただく方を選定していただいたり、当日は担当の職員と外部指導者が、児童のスキー技術や健康状態等を連携してきた。

- 外部指導者と学校職員の役割分担はどのようにしていたか
 - ⇒ 技術的なことは外部指導者にお願いしてきた。職員は児童の安全配慮等、子供とのコミュニケーションや見守りを行ってきた。
- 外部指導者を依頼する場合、どのように行っているのか。また謝金は社団法人に支払うのか。
 - ⇒ 学校が社団法人にスキーマの指導者の依頼を行い、社団法人でメンバーを選んで学校へ返していただく。謝金は、個々に支払っている。ダンスや水泳については、別の財団、体育以外は NPO や個々の優れた力をお持ちの方に直接学校が依頼する。
- 外部指導者との打ち合わせは。
 - ⇒ スピードに注意することやゲレンデの空き状況（来場者によるゲレンデの込み具合）に応じた指導をお願いしている。当日は、ぐんぐんコース（発展）とゆっくり（基礎）の2つに分かれる際、大体のレベルの話をし、滑降するコースを決定した。
- 外部指導者と職員の間で終了時刻にずれがあったが、
 - ⇒ 11:40 集合、片づけ、12:00 バスが出発の予定であった。技術的に高いクラスは早く行動できる。11:40 前には国際エリアに着いていたので、もう1本行けるという見通しのもと行かれたのだと思う。当初の計画は11:40 集合・片づけであった。
- 日本の他地域、他校において発生した事故、事例、先例を含めた上で立案・実施されていたのか。
 - ⇒ 他地域・他校の事故等を踏まえて実施した。
- 行先の救急救命の施設設備、AED の設置状況等を含めての確認はいつ行ったか
 - ⇒ スキー場との交渉や設備等の確認を行ったうえで、12月に職員に周知する。
- 学校外で教育活動を実施する場合、教員が使用する場所の安全確保をしているか。慣れたスキー場であっても形状が変更されていたり、その日の一般客の集客状況によっても注意しなければならない場所も出てくる。
 - ⇒ スキー場の改修が行われている場合は、事前にスキー場からも話があり、職員に変更点を周知している。当日の状況は行ってみなければ分からない部分もある。当日、担当の職員と外部指導者が見ながら打ち合わせし、判断することになる。
- 芸北国際スキー場でスキー授業を行うこととした経緯は
 - ⇒ 平成25年に学校統合したが、統合前は、それぞれの学校が決めたスキー場でスキー教室を行っていた。校区内には5つのスキー場があり、距離的なこと、雪不足の影響を受けないこと、スキー大会の開催状況、コースの状況等から判断した。
- 芸北小の職員数は
 - ⇒ 17名
- 芸北小の職員のスキーの経験、上級者は何名か
 - ⇒ 4名。初心者はいない。
- 事故のあったグループが14名とのことであったが、多いのではないか。
 - ⇒ 5・6年生は技術的に高いレベルを有している。
- A グループの児童は、指導者の指示をきちんと聞いていたか。
 - ⇒ よく聞いており、コントロールできないようなことはなかった。
- ヘルメットは全員着用していたか

- ⇒ 全員スキー用のクラッシュヘルメットを着用していた。
- 救急箱は持参していたか
 - ⇒ していた。
- フリー滑走は授業の中でのことか
 - ⇒ はい。
- 事前にスキーの危険について指導することは学年ごとに行っていたのか
 - ⇒ 長い時間を使っての指導ではないが、日々、指導を行っていた。
- 来シーズンに向け、どのようなことを取り組もうとしているか
 - ⇒ 安全指導の徹底。スキー指導の目的、外部との連携等、多岐にわたると考えている。
- どうしたら事故が防げていたと思うか。
 - ⇒ 計画段階から、スキー場にはボーダー等、たくさんおられる。学校教育の授業として、その中で行うということをどのように捉えて行うか、計画立案していくところからがスタートであると思う。

最後の1本を、滑ってきた順番に次々リフトに乗せていた。一旦、全員を集めたり、コースの途中で一旦集合するようなことをすればよかったかもしれない。
- 「フリー滑走」はどのグループでも通常に行われているのか。また、外部指導者はどうとらえているか。
 - ⇒ 必ず時間を設け、その日に学んだことを振り返る時間を取っている。講師も授業の一環としてとらえていただいていると考えている。
- スキー場でのマナー指導等、明文化されたものはあるか
 - ⇒ ある。子供達はスポーツ少年団にも加入しており、そこでも指導を受けている。学校でも子供達や保護者に繰り返し指導を行っている。
- スキー場に対し、スキー教室実施に係る放送やチラシ、掲示等の依頼はしていたか
 - ⇒ アナウンスや掲示等は依頼していない。コースの状況等は、パトロール隊等から情報提供をいただいていた。記録会については、コースセパレートしていただき、一般のお客さんが入れないようにしていただいていた。
- 当日のスキー場のコンディションはどうだったか。
 - ⇒ 雪も十分にあり、昼になっても雪が緩んだという状況もなかった。
- 学校安全計画、スキー教室実施に係る起案書、外部指導者の経験・資格を教えてください。

※ 以下、非公開で議事

- ③ 事故発生直後の取組
- ④ 初期対応時（事故発生直後～事故後1週間程度）の取組
- ⑤ 初期対応終了後の取組（被害児童生徒等の保護者への支援）

4 委員による分析と意見交換

○ 分析

- ・ 現状では、事故原因等を分析するだけの資料が整っておらず、分析を行うことができない。今後、必要な資料を収集した後に分析を行うことを確認。

○ 意見交換

- ・ 関係者への聞き取りが原因解明には必要であり、今後、関係者へ聞き取りの依頼を行い、早期に実施する必要がある。
- ・ 関係者への聞き取りは、正確を期すため複数の委員で行うことが必要。

5 外部の関係者への調査実施について

- ・ 聞き取りを依頼する外部関係者の選定及び聞き取りの日程調整。

6 第3回検証委員会の開催について

- ・ 日時 平成28年8月1日(月) 15:00～18:00
- ・ 場所 広島県情報プラザ 視聴覚研修室

IV. 閉会